

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

(データ送信)

【氏名】平松 彩子

【所属】東京大学大学院法学政治学研究科博士課程（助成決定時）

【研究題目】米国連邦議会下院におけるイデオロギー的議員連盟の分析

【研究の目的】（400字程度）

米国二大政党は、1970年代以降イデオロギー的両極化が進んだ。民主党内では、南部州における従来の保守派の支持基盤が弱まる一方、ニューディール期から続く労組系リベラル派に、60年代から70年代の社会運動から生まれたニュー・ポリティックス派が加わり、党内のリベラル派勢力が増大した。また80年代中盤以降は、ニュー・デモクラットと呼ばれる穏健派が組織化を進めた。同時期に共和党は、東部州選出の穏健派の多くを失ったが、南部州および山岳州において新たな政党支持基盤を形成した。1994年の中間選挙で連邦議会多数党の地位を40年ぶりに奪回した共和党は、従来の多様な政治イデオロギーを内包していた政党から、保守派が主流となった政党へと大きく変容した。

このような米国二大政党の変容を背景として、本研究では、連邦議会下院二大政党内に形成されていた五つのイデオロギー的議員連盟を通して、1995年から2006年までの十二年間続いた共和党議会多数時代の政党政治を明らかにすることを試みた。

【研究の内容・方法】（800字程度）

本研究では、下院議会民主党および共和党の各々の内部に自発的に形成されていた、五つのイデオロギー的議員連盟—民主党プログレッシブ・コーカス（リベラル派）、同ニュー・デモクラット・コアリション（穏健派）、同ブルードッグ・コアリション（保守派）、共和党チューズデー・グループ（穏健派）、同リパブリカン・スタディー・コミティー（保守派）—について、以下の調査を行った。まず各議員連盟の所属議員を、議員連盟の声明文書や新聞報道などから可能な限り明らかにし、各会期のリストを作成した。このリストに基づき、議員年鑑データを用いてそれぞれの議員連盟の選挙区特性（大統領選挙および議会選挙における政党投票率、選出回数、都市部と田園部の割合、選挙民の平均収入、経済階級、退役軍人の占める割合、世帯構成、人種構成、等）の平均値を計算した。この作業から、五つのイデオロギー的議員連盟が、それぞれ傾向の異なる選挙区から選出された議員によって構成されていることが明らかになった。さらに、各議員連盟の来歴や、組織内部の運営方法、選挙資金調達のための政治活動委員会やシンクタンク等の設立の有無についても明らかにした。

このように個々の議員連盟の特性を明らかにした上で、政党指導部選出過程、および立法過程において、五つのイデオロギー的議員連盟が決定的な役割を果たした事例を複数取り上げた。政党指導部の選出過程については次の事例を分析した。まず共和党ニュート・ギングリッチ議長の下での政党指導部体制が、1998年までに党内保守派の反対により崩れ、デニス・ハスタート次期議長に引き継がれる経過を、共和党内のイデオロギー的議員連盟の支持動向に着目しながら分析した。一方民主党については、2001年10月の民主党院内幹事選挙で争ったリベラル派ナンシー・ペロシ議員と、穏健派ステニー・ホイヤー議員の支持基盤が、イデオロギー的議員連盟と多分に連動していたことを明らかにした。なお、この院内幹事選挙は、後に議長となったペロシ議員の民主党指導部の掌握を決定づける分岐点となった。立法過程分析からは、主に環境保護法修正案、均衡予算決議案、対中国恒常通常貿易関係法の審議や採決において、イデオロギー的議員連盟を大まかな単位として超党派連合が組まれていたことが明らかになった。

【結論・考察】（４００字程度）

イデオロギー的議員連盟を通じて分析した議会政党政治については、次のような結論が導きだせる。まず、この時期に二大政党のイデオロギー的両極化が進んだとはいえ、両政党の内部には上記のような五つのイデオロギー的議員連盟が議員の間で自発的に組織され、政党指導部選出や立法過程において重要な支持基盤となり、超党派連合を形成する場合もあった。このことは、従来の議会政党研究で提示されたモデル（例えば David Rohde の「政党による条件付き議会統治論¹」や、Gary Cox と Mathew McCubbins の「手続カルテルモデル²」）では見落とされてきた現象であった。また、民主党リベラル派プログレッシブ・コーカス、および共和党保守派リパブリカン・スタディー・コミッティーの選挙区が、安定かつ継続して各党の大統領候補および議員候補を選出しているのに対して、中道派の民主党ブルードッグ・コアリション、および共和党チューズデー・グループの選挙区では、大統領候補と議員候補で異なる政党に投票するスプリット・チケット・ヴォーティングの割合が高く、かつ二大政党の投票率が伯仲する不安定な状況にあることが判明した。このことは、議会多数派の維持を企図する政党指導部と、中道派のイデオロギー的議員連盟との関係を説明するのに重要な要因であると考えられる。

¹ David W. Rohde. 1991. *Parties and Leaders in the Postreform House*. The University of Chicago Press.

² Gary W. Cox and Mathew D. McCubbins. 2005. *Setting the Agenda: Responsible Party Government in the U.S. House of Representatives*. Cambridge University Press.